

TROMBONE 担当者が語る!

山瀬剛志 (株式会社プリマ楽器 企画編集室)

Getzen

Proudly made in Elkhorn, WI USA

世界中のプロに愛されるオール・アメリカ製 ゲッツェン 3047AF、4147IB

ロータリーに代わるセイヤー(現アキシャルフロー)バルブの登場は衝撃的であった。そしてそれは、アメリカ生産にこだわり、高いクオリティの楽器を作り続けるゲッツェンに対する認知度を、圧倒的に高めたのだった。

セイヤーバルブ初採用で
幅広く知られるように

「ゲッツェン」はアメリカ中西部の楽器の町、エルクホーンで1939年に設立されました。それ以来「金管楽器ならゲッツェン」というスローガンを掲げています。最大の特長はすべてがアメリカ製ということ。パーツ一つひとつから全部アメリカにある工場で作っています。もとくとクオリティの高い楽器ですが、さらに日本に輸入したあとに高いスキルを持つ技術者の手で改めて分解・調整を行なっているところも、日本で安心して使っていただけのポイントです。日本を含め世界中のプロ奏者に使われている楽器なので、彼らに対する憧れも、ゲッツェンを選ぶ理由のひとつかなと思っております。

特にセイヤー・バルブ(現在のアキシャルフロー・バルブ)はゲッツェンが最初に使い始めたもので、バルブによる空気の流れが従来のロータリーに比べて飛躍的にスムーズになり、抵抗感が格段に減少しました。この革新的なバルブの採用によりゲッツェンの認知度は一気に上がりましたね。現在は特許が切れたため他のメーカーさんにも採用されています。

なお、同じ工場で作られている別ラインアップとして「エドワーズ」があります。スライドからベル、チューニング管などあらゆるパーツを組み合わせて、プレイヤーごとにびつたりの楽器を作り上げるというコンセプトですが、組み合わせれば膨大な数になるので、かなりの上級

者でないといらいどおりの楽器にするのが難しいのが実情。対してゲッツェンは、メーカー側で推奨の組み合わせをラインアップしています。

楽器にこだわりを持ち、
自分の音楽を突き詰めた人に

今回はラインアップのなかから3047AFと4147IBをご紹介します。3047AFはアキシャルフロー・バルブを採用したテナーバスで、アマチュアからプロ奏者まで広く使用されているモデルです。ゲッツェンの特長として、現在生産されているものほとんどはベル先端のリムにハンダが入っていないことが挙げられます。作るには高い技術が必要ですが、ハンダの重量がないぶん、より響き、あたたかい音になります。F管のレイアウトなども、バルブ使用時でも未使用時でも同じ吹奏感を実現できるように念に設計されています。また、マウスピースが3種類付属しており、材質や長さは同じなのですが内部のテーパが違って、それぞれ異なる吹奏感を得ることが出来ます。

4147IBはロンドン交響楽団やウィーン・フィルの首席も務めたイアン・バウスフィールドさんのシグネチャーモデルです。バルブは通常のロータリーで、近代の楽器では少数派のナロースライドを採用。音の核がより明確で、反応のよさとふくよかな音色が特徴の、ソロからオーケストラまでオールラウンドに活躍できる吹きやすい楽器です。「ピラー」と呼ばれるパー



ゲッツェン 3047AF ¥968,000 (3047AFY)

イエロー・プラス・ベル、太管スライド、アキシャルフロー・バルブを持つゲッツェンの代表的モデル。マウスピースが標準で3本付属する。レッド・プラス・ベルの3047AFRもラインアップされるが、ベルだけ購入して交換することも可能。

ゲッツェン 4147IB ¥990,000

世界的トロンボーン奏者、イアン・バウスフィールド・モデル。Bb管とF管を連結するV字型の支柱や、手元の支柱に「ピラー」と呼ばれる小さなパーツの取り付け方をアレンジすることで響きを変化させられる「ハモニックピラー・システム」を搭載している(ピラーはニッケルと銅の2種類が付属)

支柱の中央に装着されている円柱状のパーツが「ピラー」

の取り付け方のアレンジにより、響きをさまざまに微調整することも。これはエドワーズが開発・最初に採用したシステムです。マウスピースはグレイゴ製でそれぞれの楽器に合うものが付属しています。3047AFはCS5という標準的なマウスピースですが、

4147IBには軽量化したIBC5が組み合わされています。これはバウスフィールドさん自ら指定したものです。今回ご紹介したモデルを含め、ゲッツェンのトロンボーンは楽器にこだわりを持ち、自分の音楽を突き詰めたと思う人にぜひ使っていただきたいと思えます。もちろん、初心者の方がプロの奏者に憧れて購入されても、吹きこなせないようなことはありません。むしろ、気に入った楽器を長く使えることで、上達も早いのではないのでしょうか。



付属のロータリーオイル(右)とスピンドルオイルには、動きを滑らかにするためのシリコンなどの添加物が一切入っていない。これは「加工精度に絶対の自信があるので、オイルは錆が出ないようにするための働きで十分」とメーカーが考えているからという。

※価格はすべて税込で、2024年1月時点のものとなります。



マウスピースはどちらもGRIEGO(グレイゴ)が付属する。ゲッツェンで楽器開発をしていたクリスタン・グレイゴ氏によるマウスピースブランドで、3047AFにはCS5(右)、4147IBにはより軽量化したIBC5が組み合わされている

